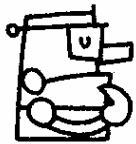


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /  
大地のしくみ / 理解シート

## 火山のふん火のちがいと、各タイプの山の名を教えて



マグマにふくまれたガスの量や、マグマのねばり気のちがいで、山によって、ふん火のようすはちがってくるのさ。

### マグマにとけていた気体が、火山をばく発させる

地下の深い所で岩石がとけてどろどろになっているものを、マグマといいます。マグマが、地表近くにのぼってきてたまっているマグマだまりでは、マグマが冷えて、中にとけていた気体が、あわになって出てきます。急激きゅうげきにこの気体の体積がふえると、地表の弱い部分をふき飛ばして地上に出てくるため、火口ができます。そして、気体（火山ガス）とマグマがふき出し、ふん火が続きます。

高温のマグマに熱せられて、地下水が水蒸気すいじょうきになり、急激に体積がふくらむため、水蒸気ばく発を起こすふん火もあります。このときは、よう岩は出てこないで、水蒸気と、まわりのふき飛ばされた岩石のかけらが飛び散ります。福島県磐梯山ばんたいさん、東北の栗駒山くりこまさん、栃木の那須岳なすだけがこの例です。

### マグマのねばり気のちがいで、ふん火のようすがちがってくる

とけて液体のようになったマグマは、成分により、ねばり気にちがいがあります。ねばり気が強いと、とけている気体もあわになって出にくいいため、はげしいばく発のふん火になります。また、よう岩も流れにくいので、火口近くがもり上がった火山になります。北海道の昭和新山や、箱根の二子山ふたごやま、焼岳やけどけなどが、これです。

ねばり気が少ないと、マグマの中の気体もすぐぬけてしまい、ふん水のようによう岩が流れる、ハワイのキラウエア火山などのようになります。

ねばり気が少ないマグマから、次々と気体がぬけ出すとき、小さいばく発をくり返す、秋田の駒ヶ岳こまがたけのような例もあります。

もっと知りたい人へ：「火山のふん火は、なぜ起きるの」も見てみよう。